

成虫で越冬する昆虫



セミの抜殻の中で春を待つ ツヤアオカメムシ

寒さが厳しく一年の中で、昆虫を見る機会が一番少ない季節。でも注意深く探せば「共生の森」で春を待つ昆虫がいる。

この日、見かけたのはナナホシテントウ、ツチイナゴ、ツヤアオカメムシ。

成虫で冬の寒さを凌ぎ、春一番の若葉や食べ物を独り占めする作戦を選んだ生き物たち。

3日前の1月20日が大寒。まだ春は遠い。

メジロ と ビワ



ビワの花にメジロがやって来た。虫の少ないこの季節、「共生の森」のビワの受粉の一端はメジロが引き受けているよう。

冬 芽(ふゆめ・とうが)



ヒツジ系 オニグルミ



荒れてる人系 センジュ



妖精系 シナサワグルミ



顔なし系 シンジュ



ツチイナゴ



ナナホシテントウ

見かけた 生き物・植物



ピラカンサ(好バナドキ)



タヌキのため糞

タヌキの糞がオレンジ色に。食べ物の少ないこの季節、ピラカンサで凌いでいる。



危ない人系 アオギリ



もっと危ない系 タラノキ



ツルニチニチソウ



スイセン



数年に一度の寒波が接近中。海は荒れ模様。

オオタカ (タカ科)



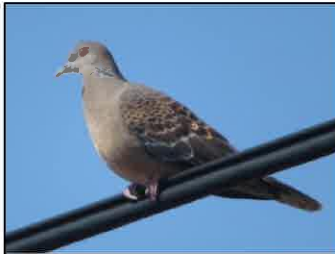
襲われたコミズク

穏やかな日差しの中ツグミやメジロの姿を見、ウグイスの声を聞きながらJ山を歩いた。進んでいくと鳥の鳴き声の少ない場所に出た。

あたりを見渡すと前方のセンダンの木にオオタカがとまっている。

この冬、J山ではコミズクやトラフズクが猛禽類に襲われた。その犯人と疑われていたのがオオタカ。皆さんの予想通り J山にオオタカがいました。

見かけた 生き物・植物



キジバト



ツグミ



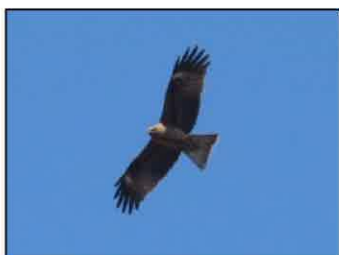
ヒヨドリ



メジロ



ノスリ



トビ

冬の終わりに近づき、木の実も少なくなってきた。メジロが残された固いナンキンハゼの実を食べていた。

冬の木



葉を落としたセンダンの木



シナサワグルミ



シンジュ



ヤツデ



ナワシログミ



ヒメオドリコソウ



スイセン

ウメ



ウメが咲き、ヒメオドリコソウが踊り出す春はすぐそこ

ヌートリアの頭骨



H29.3 Q池

今年度の植栽地に哺乳類の頭骨が落ちていた。池から離れているがオレンジ色の前歯からヌートリアの頭骨であることがわかる。

なぜ前歯がオレンジ色なのか？このオレンジ色はいつまでも落ちないのか？

なぜこんなところに落ちているのか？

「子ダヌキが猛禽類に襲われたのでは？との情報」からするとヌートリアも襲われたのか？

ひとつも解決しない疑問を胸に春の「共生の森」を散策するのもまた楽しい。

見かけた 植物・生き物



アケビ



ナワシログミ



カンサイタンポポ



セイヨウタンポポ



ホトケノザ



ヒメオドリコソウ

ヤマモモ



ヤマモモの雄花（雄株）が咲いていた。今年はどこかで実がなるか楽しみ

サクラ や モモの仲間が満開！！



冬鳥はそろそろ 旅立つ季節



キンクロハジロ



ツグミ

フタモンアシナガバチ



冬を越した 女王蜂が 巣作りを始める

ツマキチョウ (シロチョウ科) (初登場)



年に一度、春にだけ現れるツマキチョウ。朝から何度か見かけたが、飛び立つとなかなかとまらない。この日、一度だけセイヨウカラシナにとまっているのを見た。

「共生の森」では植物の遷移が進むにつれ生き物が増えてきた。もしかすると昨年もいたかもしれないが今回、ツマキチョウは「共生の森」に現れた25番目のチョウになった。

次に「共生の森」でツマキチョウを見ることが出来るのは来年のこの季節。

ハチの巣 (初確認)



J山に昨年の スズメバチの中間の巣があった



モンズメバチ(初登場)



ヒメスズメバチ



クマバチ



フタモンアシガバチ



ヒゲナガハナバチ



ムカデ



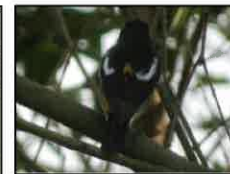
ギンヤンマ



シオカラトンボ



ゴマダラチョウ(幼)



キビタキ



ノスリ

見かけた 植物・生き物



ナツグミ・コアオハナムグリ



タガラシ(初登場)



シロバナカラスノエンドウ(初登場)



カラスノエンドウ



スズメノエンドウ



カスマグサ



ミヤコグサ



オヤブジラミ



ヤエムグラ



ナガミヒナゲシ



エノキ



ウバメガシ



クロマツ

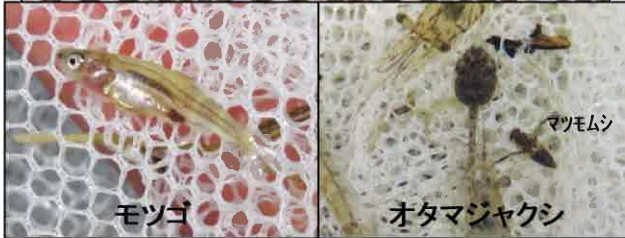


センダン

「共生の森」の水生生物



スジエビ



モツゴ

オタマジャクシ

Q 池をのぞくと、たくさんのスジエビが泳いでいた。よく見ると、小さな魚(モツゴ)も泳いでいる。「共生の森」で初めてエビと魚を確認したのは2年前。久しぶりに姿を見たが、ここで繁殖し定着しているよう。

今年はエビに交じってオタマジャクシもたくさん泳いでいた。

見かけた 植物・生き物



オオシマザクラ



ビワ



ザクロ



ドクダミ



ハマヒルガオ



コヒルガオ



ヒルザキツキミソウ



セイヨウヒキヨモギ



スイカズラ



ヘビイチゴ

ルリシジミ



ルリシジミ が イタドリに産卵していた



アホヒハナムグリ



カルガモ



ツマグロヒョウモン



ヒメアカタテハ



キタテハ



テングチョウ



キアゲハ幼虫



コフキトンボ



ギンヤンマ



ショウジョウトンボ



タヌキ

センダン



センダンの花が咲いていた

ツバメシジミ (シジミチョウ科)



コマツナギに産卵

シロツメクサやカラスノエンドウにも産卵することから「共生の森」が草原のころからやってきていたツバメシジミ。

この日はコマツナギに卵を産んでいた。

名前の由来は、後翅にあるツバメの尾状の細い突起から。

小さくて見逃しがちだが「共生の森」では4月から10月まで長い期間見られるチョウ。

見かけた 植物・生き物



トウネズミモチ



シナサワグルミ



マサキ



ナンテン



アカメガシワ



ナンキンハゼ



シナガワハギ



ヤマアワ



ウイキョウ

オニグルミ



オニグルミの実がたくさん



オオヨシキリ



花に潜む ハナグモ



シオカラトンボ(ヤゴ)



チョウトンボ



ギンヤンマ



マイコアカネ



トノサマバッタ



ヒメギス



キマダラセセリ



ヌートリア糞(J山北)

アオスジアゲハ



ハナグモ (カニグモ科)



花に虫が来ることを知っていて、網を張らずにひたすら虫を待つハナグモ。

炎天下の中ノラニンジンの花の真ん中で両手を広げるように虫を待ち構えていた。

先月はアカメガシワの花に、秋にはセイタカアワダチソウの花にもいた。

いろいろな芸風の生き物が、それぞれ自慢の作戦で「共生の森」を生きている。

絶対絶命のピンチ !!



クマゼミにも敵が。大きすぎてコガネグモも躊躇



クモの巣を振り切った形跡のあるゴマダラチョウ

見かけた 植物・生き物



イヌビワ



ハマハナセンブリ



ウイキョウ



アメリカノウゼンカズラ



コチドリ



ミカドドロバチ



シラホシハナムグリ



アブラゼミ



台湾ウチワヤンマ



マイコアカネ



チョウトンボ



ヤマトシジミ

ムラサキシジミ (初登場)



森林のチョウ登場「共生の森」26番目の蝶

リスアカネ (トンボ科) (初登場)



植栽を始めてから10年以上の年月が過ぎ木々が大きく育ってきたJ山。

J山の林縁ではこの日たくさんのマイコアカネが見られた。そのマイコアカネに交じって羽根の先の黒いリスアカネの雌がいた。

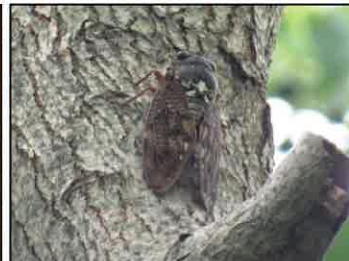
マイコアカネもリスアカネもそれほど飛翔力があるようにはみえない。近場に生息地もなさそうな感じがするが昆虫は環境を整えればどこからともなくやってくる。

リスアカネは「共生の森」に定着するのでしょうか。

季節の移り変わり



ツクツクボウシ



アブラゼミ

先月多かったクマゼミがほとんど居なくなり、ツクツクボウシが主役となっていた。

台風20号(8月23日)



台風の強風により海辺のフェンスが倒れたが「共生の森」に大きな被害はみられなかった。



キマダラセセリ



イチモンジセセリ

見かけた 植物・生き物



マイコアカネの多いJ山 林縁部



マイコアカネ



サフランモドキ



ヘクソカズラ



ネムノキ



クヌギ



カナヘビ



シナサワグルミ
子ダヌキ



オオカマキリ



ヨコヅナサシガメ



イチジク



フヨウ



今年 生まれの子ダヌキが走り抜けた

タンキリマメ (マメ科) (初登場)



「共生の森」でタンキリマメを初めて見つけたと聞いて駆けつけると簡単に見つけられるくらいに生えていた。

漢字で書くと「痰切豆」。種にタンを切る効果があるので名づけられたとか。タン切り効果の方は調べてみても評価が分かれるよう。

種は鳥が運ぶとのことであるが、実は固くて果肉も無い。こんなものをなぜ鳥が食べるのか不思議。

これを運んだ鳥は痰が切れてよい声で鳴いているのかもしれない。

トラフズク



ウサギの耳のような羽角を持つトラフズク J山の海側に2羽でいた。



カラス (白丸) に追われる コミミズク

見かけた 植物・生き物



トベラ



ナワシログミ



コナラ



ハゼノキ



アキノレ



ノイバラ



マサキ



ヤブラン



イヌビワ



ナンキンハゼ

モズの はやにえ



ナンテン



マユミ



カメムシ 刺す方も、さされる方も大変そう。